

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2006	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
1	開館10周年 特別企画展 植田正治: 写真の作法 12月17日(土) ~2月5日(日)			
2	上野彦馬展 2月11日(土・祝)~2月18日(土)	写真展・岡本太郎の視線 12月24日(土)~2月18日(土)	発掘された不滅の記録 1954-1975 「VIET NAM ベトナム」 そこは戦場だった 1月14日(土)~2月19日(日)	ガラスの使徒 12月17日(土)~2月18日(土)
文化庁メディア芸術祭 2月24日(金)~3月5日(日)				
3				
4		私のいる場所ー 新進作家Vol.4 ゼロ年代の写真論 3月11日(土)~4月23日(日)	ウツクニ 我愛你 3月11日(土)~4月14日(金)	
5	ギィ・ ブルダン展 4月29日(土・祝)~5月27日(土)		社団法人日本広告写真家 協会公募展 4月29日(土・祝)~5月14日(日)	緑茶 4月15日(土)~
6	東川町写真展 6月1日(木)~6月18日(日)	世界報道写真展 6月17日(土)~7月30日(日)		※このほかについての 詳しい情報は ホームページをご覧ください。
7	世界報道写真50周年展 7月22日(土)~9月10日(日)		マイケル・ケンナ展 5月20日(土)~6月25日(日)	※スケジュール・展覧会タイト ルは予告なく変更される場合 があります。 最新のスケジュール詳細は ホームページをご覧ください。
			イザベル・ユベール展 7月11日(土)~8月6日(日)	

ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日)ただし2/27(月)と5/1(月)は臨時開館
- 全館休館日：2/20(月)~2/23(木)および3/6(月)~3/10(金)
- 開館時間：10:00~18:00(木・金は20:00まで)入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。
詳しくはチケット売り場でおたずねください。



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel.03-3280-0099 / Fax.03-3280-0033

<http://www.syabi.com>

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ06」49号●発行日:2006年1月28日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係●印刷・製本:
JTB印刷株式会社●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2006●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE

eyes 2006 Vol.49
東京都写真美術館ニュース「アイズ」

49



*1

TOPICS
eyes Vol.49

私のいる場所 — 新進作家展 Vol.4 ゼロ年代の写真論

東京都写真美術館では2002年から、写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、写真愛好者やひろく一般層に向けて、現代の写真映像文化を紹介することを目的とした「日本の新進作家展」を立ち上げ、毎年、新進気鋭の作家によるグループ展を開催しています。開館10周年を迎えた本年度のテーマは「私のいる場所」。作家自身の内なる視線から、あるいは外側からとらえた視線により、写真および美術の命題でもある「私性(プライベート)」の記録と表現をたどります。日本および海外で、ゼロ年代(2000年代)以降に頭角をあらわしてきた若手・中堅作家のうち、7カ国から15作家/グループの新作・未発表作品等を取り上げ、写真映像の新たな可能性や価値観を問いかける展覧会です。

私のいる場所 — 新進作家展 Vol.4 ゼロ年代の写真論

> 友の会割引 > 三越カード割引 > アトレカード割引

>> 3月11日(土) → 4月23日(日)

○会場：3・2階展示室、地下1階映像展示室
[3会場共通観覧料] ○一般 1,200(960)円 ○学生 1,000(800)円 ○中高生・65歳以上 800(640)円
[1会場観覧料] ○一般 500(400)円 ○学生 400(320)円 ○中高生・65歳以上 250(200)円
()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人 東京都歴史文化財団/東京都写真美術館
○後援(申請中)：オーストリア大使館/オランダ王国大使館/韓国文化院/ハンガリー大使館/フィンランドセンター/フランス大使館/ベルギー王国大使館
○作品制作技術協力：キヤノン株式会社
○協力：堀内カラー/Contretype/Hippolyte Photographic Gallery/huis Marseille foundation for photography/Kenji Taki Gallery/Mai Mano House/マダナム・フォト東京/Plan deux/日本カメラ社/Yumiko Chiba and Associates
○助成：財団法人 地域創造



HP 詳細ホームページ：
<http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

PART1 私のなかの私

会場:3階展示室



*2



*3



*4



*5



*6



*7

「自分自身を描くこと」は、その時代を生きた彼らの存在証明として、有史以来アーティストたちにとって、もっとも重要なテーマでした。そして、現代に至るまで、アーティストたちはそれぞれの〈現在〉を探り、描き出す作業を続けています。それは穏やかな家族との生活であり、日々更新される日記のようなものでもあり、また、自らを映し出す鏡としての記憶を辿る旅ともいえるでしょう。

例えば、ベルギーの片田舎に家族と暮らすジャン・ポール・プロヘスが、決してきれいごとではすまされないスローライフをリアルに描き出す一方で、フィンランドの作家、エリナ・プロテルスは完璧なまでの都会の孤独を17世紀の絵画を引用した作風のなかに美しく表現しています。

私たちは、彼らの作品を通して日ごろ見失いがちな日常の断片やその重なりの意味を新たに気づかされるに違いありません。

PART1

私のなかの私 会場:3階展示室

- ジャン=ポール・プロヘス
Jean-Paul Brohez (1959年生まれ、ベルギー)
*2 シリーズ「雨を連れて来た男」より 1990-2000年
- アントワーン・ダガタ
Antoine d'Agota (1961年生まれ、フランス)
*3 満1.(部分) 2003年
- 染谷 亜里可
そめや・あrika (1961年生まれ、日本)
*5 シリーズ「Decolor-Subtilis」より 2005年
- エリナ・プロテルス
Eliina Brotherus (1972年生まれ、フィンランド)
*7 シリーズ「ニュー・ペインティング」より 2002年
- 塩田 千春
しおた・ちはる (1972年生まれ、日本)
*6 いとこの顔、シリーズ「ファミリー・ポートレイツ」より 1998年
- アンニ・エミリア・レップアラ
Anni Emilia Leppälä (1981年生まれ、フィンランド)
*4 シリーズ「若木」より 2005年

※掲載されている作品図版は、出展作品と異なる場合があります。

PART2 社会のなかの私

会場:2階展示室

デジタルの時代を迎え、インターネットの普及に伴って「私性」はいとも容易に公開されるようになりました。同時に、ときには意図しない場所で素の自分を暴かれるという問題も抱えています。また、「私性」が広く流布されていく一方で、匿名性の高い、あるいはごく限られた人々との結びつきのみでこだわる、いわゆる個人の「セル化」も顕著に見られるようになってきました。オランダの作家、ジャクリヌ・ハシンクは職場という公的な場所に垣間見られる「私性」をマグカップという静物を使って見事に浮き彫りにしています。

「<本>は自己のアイデンティティを象徴する」という韓国の作家、姜愛蘭。個人的なテーマを普遍的なテーマへと置き換えた彼女の作品は、主に自分自身の、あるいは公共の場にふさわしい「書庫」を、青白く発光する本のオブジェを使い、インスタレーションで表現しています。

パート2では、社会のなかの「私」が見た世界、視界をさまざまな形で発表している作家たちの作品を紹介します。



*8



*9



*10

*11

PART2

社会のなかの私 会場:2階展示室

○カン・アイラン

姜愛蘭 (1960年生まれ、韓国)

*8 インタラクティブ・ブック、2003年、シリーズ「デジタル・ブック・プロジェクト」より

○ニコール・トラン・バ・ヴァン

Nicole Tran Ba Vang (1963年生まれ、フランス)

*表紙 シリーズ「秋/冬コレクション2003/04」より 2003年 ©Nicole Tran Ba Vang, Photography from series "Autumn/Winter 2003/04 Collection", 2003, Anne-Claire. www.tranbavang.com

○ジャクリヌ・ハシンク

Jacqueline Hassink (1966年生まれ、オランダ)

*9 パーソナル・コーヒー・カップ、USA(部分) 2000年 シリーズ「マインドスケープ」より

○原 美樹子 はら・みきこ (1967年生まれ、日本)

*1 シリーズ「まなざしの触手」より 2006年

○サボー・シャロルタ

Sarolta Szabó (1975年生まれ、ハンガリー)

*10 シリーズ「実験的な集合住宅」より 2002-03年

○池田 昌紀 いけだ・まさのり (1978年生まれ、日本)

*11 シリーズ「休日の写真館」より 2004年

PART3 日常への冒険

会場:地下1階映像展示室



*12



*13



*14

ここでは「写真表現」や「美術」の領域にとどまらず、「文化」「生活」といったより広い視点から、日常性と写真とのつながりを考えていきます。このパートの出品作家にはいわゆる「写真家」が一人もいません。狭義の「写真」の専門性の外側から「表現」や「作品」を意識せず、遊び感覚や好奇心で視界がとらえたものをカメラにおさめ、写真を人とコミュニケーションしていくツール代わりに用いるなど、アマチュア精神的なものだからこそ感じられるユーモアある「私性」を見つめてみたいと思います。

なかでも、怪しげなキャラクターや滑稽な看板など、一見取るに足らないと思われる街ネタを採集し、絶妙なレイアウトでカテゴライズしたのが、イラストレーターやエッセイストとして活躍するみうらじゅんの作品です。彼の作品は、私たちが日常生活のなかでもっていた既存の意味や価値の枠組みを見事に裏切り、シリアスになりがちな写真やアートの世界に笑いと発見を呼び起こしています。

また、世界各地の「ロモグラファー」から寄せられたフリースタイルのスナップショット集団「ロモグラフィー」では、土地も時間も国籍も異なる人々がとらえた作品が織り成す偶然性や現代的なプライベートの形を展示。

グラフィカルな構成は彩りも美しく、あらゆる角度から写真を楽しむことができます。

アーティスト・ユニットの「セカンド・プラネット」は、カメラ付き携帯電話などのモバイルを活用した一般参加型プロジェクトを行います。ここでは「風景」や「カラス」をテーマにした人々の日常がそのまま作品となります。

新進作家が描く独自の「私性」作品から、いまある「私の場所」を見つめなおしてみるのも面白いかもしれません。

募集中 Eメールを使ってプロジェクトに参加できます

詳細は http://www.syabi.com/schedule/details/project_bosyu.html

PART3

日常への冒険

会場:地下1階映像展示室

○ロモグラフィー

LOMOGRAPHY (1992年結成、オーストリアはじめ世界各地)

*12 「ロモグラフィック・イメージ・バンク」より 2003年

○みうらじゅん

Jun Miura (1958年生まれ、日本)

*13 写真集「アイノカテゴリー」より 勝負(そんな夜もあっていいじゃない) 2005年

○セカンド・プラネット(参考作品)

Second Planet (1995年結成、アーティスト・ユニット、日本)

*14 カラスのプロジェクト(仮称) 2006年

2F

2階展示室

Exhibition Gallery

友の会割引

三越カード割引

アドレカド割引

2005年12月24日(土) → 2006年2月18日(土)

東京都写真美術館開館10周年記念特別企画展 写真展・岡本太郎の視線

○一般 1,000(800)円 ○学生 800(640)円

○中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：(財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/
読売新聞東京本社/美術館連絡協議会○協力：(財)岡本太郎記念現代芸術振興財団/
岡本太郎記念館/川崎市岡本太郎美術館

○協賛：花王株式会社/株式会社写真弘社



岡本太郎撮影「かまくらを作る少女」(岡本太郎「芸術風土記・1秋田」『芸術新潮』1957年4月号)より
©財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団 川崎市岡本太郎美術館蔵

一人の固有名詞を超え、「昭和」、「高度経済成長期」、「爆発」というさまざまな言葉からイメージが結びつく芸術家・岡本太郎。そのパワーは亡くなった今もなお、私たちの精神に力強い影響を与えてくれます。

岡本は20代をパリで過ごし、そこでブラスサイなど多くの写真家と交流をもちます。1950年代から60年代には日本列島取材し、時に原初的で野太く、あるいは現代も構築し続けるべき「伝統」として日本と日本人の姿をギリギリとした視線に映し、ギリギリとした写真に収め、文章に添えて発表しました。本展では、岡本太郎がパリ時代にかかわった写真家の作品から彼のルーツを探り、雑誌・著作へ発表した写真、言説や資料から、岡本と写真との関係をつまびらかにする試みです。

B1F

地下1階映像展示室

Images & Technology Gallery

友の会割引

1月14日(土) → 2月19日(土)

発掘された不滅の記録1954-1975 「VIET NAM ベトナム」そこは戦場だった

○一般 800(640)円 ○学生 700(560)円 ○中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会

○主催：朝日新聞社 ○共催：東京都写真美術館



パトロールする北ベトナムの女性民兵 1966年 タンホア省イエンブック村 ©Mai Nam

ベトナム戦争終結後、30年の時が経ちました。いまでも多くの人々の心に深い傷跡として残されているこの戦争は、戦争報道という面において歴史上、例を見ないほど多くの報道関係者らにシャッターを切らせたものでもありました。本展は、これまであまり紹介されることのなかった北ベトナムの写真家が残した写真を多数展示し、南北両面からベトナム戦争の記録を見つめ直します。その場に立ち会わざるを得なかった人々の姿を感じてください。

◎お問い合わせ：朝日新聞社文化事業部 03-5540-7450

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

1・2・3・B1F

1・2・3階展示室・地下1階映像展示室

Exhibition Gallery / Images & Technology Gallery

2月24日(土) → 3月5日(日)

※2/27(月)は臨時開館します

平成17年度[第9回] 文化庁メディア芸術祭

○入場無料

○主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁CG-ARTS協会)

○協力：財団法人東京都歴史文化財団、東京都写真美術館ほか

HP 詳細ホームページ：http://plaza.bunka.go.jp/

文化庁メディア芸術祭は、ウェブ・ゲーム・CG・インスタレーション・アニメーション・マンガなどさまざまな分野におけるメディア芸術作品を顕彰し、アーティストの創作活動を広く紹介するために、平成9年度から毎年開催されています。本年度は世界44カ国より寄せられた応募総数1,797作品の中から4作品がメディア芸術祭の大賞として決定しました。

※2階・3階展示室では大賞をはじめとする受賞作品24点と推薦作品158点を展示します。また地下1階映像展示室では4つの関連企画展を開催します。

メディア芸術祭 受賞作品展(2階・3階展示室)

アート部門

インタラクティブ

作品名：「Khronos Projector」

作者名：Alvaro CASSINELLI

コピーライト：©Alvaro Cassinelli



エンターテインメント部門

ウェブ

作品名：「Flipbook!」

作者名：Juan Carlos Ospina GONZALEZ

コピーライト：©FABRICA



アニメーション部門

短編

作品名：「浮城」

作者名：榎原 澄人

コピーライト：©榎原 澄人



マンガ部門

ストーリーマンガ

作品名：「失踪日記」

作者名：吾妻 ひでお

コピーライト：©吾妻ひでお/イースト・プレス



関連企画展(地下1階映像展示室)

■デバイスアート展

日本のモノづくりに根ざした新しいアートの形態である「デバイスアート」を紹介する企画展。メディア芸術祭の歴代受賞者の新作を中心に展示します。

■先端技術ショーケース ～未来のアート表現のために～

デジタル技術がアートやエンターテインメントと結びつき、先端技術がもたらす表現の可能性はさらに高まっています。東京大学や科学技術振興機構などでおこなわれている最新のデジタルメディア技術と研究を紹介し、(主催：文部科学省・独立行政法人科学技術振興機構)

■第11回 学生CGコンテスト受賞作品展

学生を対象にしたデジタルアートのコンテスト。静止画、動画、インタラクティブの3部門に応募があった1,379作品から選ばれた優秀作品を紹介し、(主催：CG-ARTS協会)

■Media Art in the world

SIGGRAPH(アメリカ)、Ars Electronica(オーストリア)、FILE(ブラジル)、SICAF(韓国)など、海外のメディア芸術分野のフェスティバルを紹介し、(主催：CG-ARTS協会)

上映会、シンポジウム、イベント(1階ホール)

上映会やメディア芸術に関するさまざまなシンポジウムを開催します。詳細は <http://plaza.bunka.go.jp> まで。

◎お問い合わせ：CG-ARTS協会内文化庁メディア芸術祭事務局 0120-454536



2F

2階展示室
Exhibition Gallery

> 友の会割引

> 三越カード割引

> アトレカード割引

>> 4月29日(土)・(祝) → 6月11日(日)

※5/1(月)は臨時閉館します

オーストラリア現代作家展

DESTINY DEACON

ディスティニー・ディーコン展 Walk & Don't look blak

○一般 700(560)円 ○学生 600(480)円 ○中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

○主催：東京都/東京都写真美術館

○後援：オーストラリア大使館 ほか

HP 詳細ホームページ：<http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

世界的活躍がめざましいオーストラリアの新進気鋭アーティスト、ディスティニー・ディーコンの展覧会を開催します。ディーコンは1957年クィーンズランド州、先住民エルブ・メール族の家系に生まれ、メルボルンで育ちました。現在、オーストラリアでは現代社会の構造や問題を見直そうという視点から、ディーコンのような先住民出身作家(インディジネス・アーティスト)の表現に注目が集まっています。なかでもディーコンは、お土産物の人形など、日常に溶け込んでいるモチーフを選び、そこに隠されている歴史や現実の歪みを鋭い視点で独特のユーモアを交えて、写真や映像で表現しています。タイトルの“Don't look blak”も「back(過去)」「black(黒人)」など複数の意味をもつディーコンのつくった造語です。豪日交流年でもある今年、オーストラリアの現状をより深く知ることは、日本や周辺諸国におけるさまざまな問題にも考えを巡らせるきっかけとなるでしょう。

*1 Adoption 1993/2000

*2 Hunging out too, 2003

*3 Melancholy 2000 From the series Sad & Bad

*4 Over The Fence 2000 From the series Sad & Bad

*5 Being There 1998

*6 Blak like me, 1991/2003

*7 Ask your mother for sixpence, 1995/2003

*8 If I had a hammer, 2003

*9 Waiting For Goddess (B), 1993/2003

*10 Blak'n blue, 1994/2003

*11 My boomerang did come back, 2003

*12 Sad, 1998/2003

*13 Slow, 1998/2003

*14 Travelling, 1998/2003

※図版はすべて©Destiny Deacon

3F

3階展示室

Exhibition Gallery

友の会
割引

4月29日(土)・(日) → 5月27日(土)

※5/1(月)は臨時開館します

ギィ・ブルダン展

GUY BOURDIN PHOTO EXHIBITION

○一般 1,300(1,000)円 ○学生 1,000(800)円
○中高生・65歳以上 800(640)円

()は20名以上の団体
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

○主催：CUBE INC.
○共催：東京都写真美術館
○協賛：LANVIN, Van Cleef & Arpels,
hp.CHARLES JOURDAN 他
○後援：フランス大使館(予定)

HP 詳細ホームページ：http://www.guybourdin.org



Artist's personal archive circa 1978

1970年代を代表する伝説のフォトグラファー
『BOURDIN IS UNQUESTIONABLY THE
MOST INTERESTING FASHION PHOTOGRAPHER
IN PARIS TODAY』
CECIL BEATON, 1975
“ブルダンは今日のパリで間違いなく一番面
白いファッション・フォトグラファーだ”
セシル・ビートン 1975年

20世紀で最も影響力のあるファッション・フォ
トグラファーの一人であるギィ・ブルダン。
1991年彼の死去により、彼の生涯における
作品のリバイバルへの新たな興味が生まれ
ました。彼が亡くなって10年後の2001年
には作品の全貌が編集され、写真集『EXHIBITA』
として発表。彼の作品は現代のイメージ・メイ
キングにおいてインパクトを与え、現在でも多
くの写真家、スタイリスト、アートディレクター、ア
ーティストなどに多大な影響を与えています。

2003年4月、ロンドンのVictoria&Albert Museum での開催を皮切りに世界各国で開催されている『GUY BOURDIN PHOTO EXHIBITION』。本年4月、満を持して日本でのギィ・ブルダン(GUY BOURDIN)初の写真展が開催されます。ヨーロッパで開催された内容に加え、1980年代に東京で撮られた貴重な写真などをオリジナルプリントとともに初公開いたします。ギィ・ブルダンの生涯における作品の全容を公開する本写真展は、現在のファッション・シーンをはじめする日本のクリエイティブに多大な影響を与えるとともに、日本のクリエイティブのイメージ・メイキングに、さらなるインパクトを与えることでしょう。

◎お問い合わせ：GUY BOURDIN PHOTO EXHIBITION 実行委員会 CUBE INC. 03-5420-8724

B1F

地下1階映像展示室

Exhibition Gallery

友の会
割引

5月20日(土) → 6月25日(日)

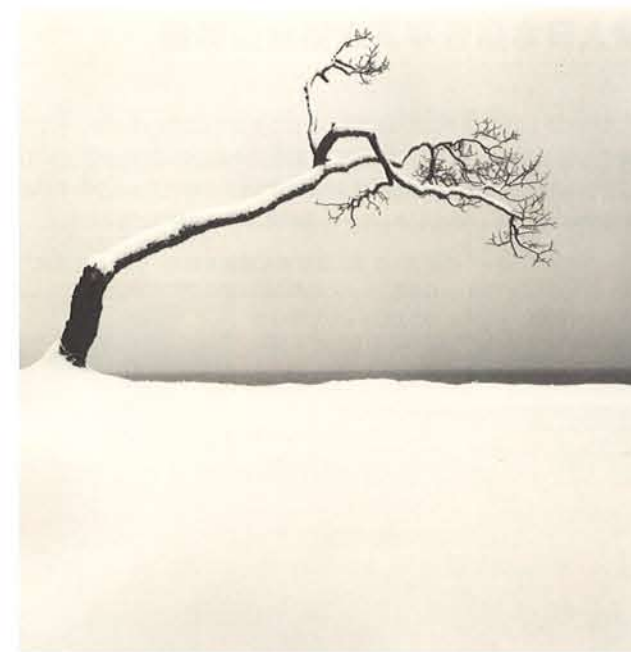
マイケル・ケンナ展「IN JAPAN」

○一般 1,000(800)円 ○学生 800(640)円
○中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

○主催：(有)ラム
○共催：東京都写真美術館
○協力：株式会社写真弘社/富士フィルムイメージング株式会社

HP 詳細ホームページ：http://www.michaelkenna.net



屈斜路湖、北海道 2005年

世界でもっとも重要なランドスケープ・
フォトグラファー、マイケル・ケンナ
は1953年、イギリスの北部工場
地帯、ランカッシャーに生まれ育ち
ました。ロンドン芸術学校で学ん
だ後、1976年に写真の高等国家
免状を取得。1977年よりアメリカ
に渡り、写真家としての活動を始め、
現在に至ります。

主に夜明けか日没の頃に撮影さ
れるモノクロームのケンナの風景
写真は、伝統的でストレートな技法、
構成によって表現されています。
しかし、それらの作品はミステリア
スで、現実を離れた異次元空間を
錯覚させるものがあり、なおかつク
ラシカルでロマンティックな叙情に
満ちています。また、光と大気の微
妙な変化がそのまま写真の粒子と
トーンになって焼き付けられたよう
な画面はイギリス風景画の伝統を

感じさせるでしょう。独自の美意識による卓越したプリント・テクニックと仕上げは、作品の“精神性”を裏付け、世界中で高い評価を得ています。本展では2001年より毎年撮り続けている「日本」の風景イメージを約150点(モノクロ)で構成し、マイケル・ケンナが感じた北海道から沖縄までのイメージをスピリチュアルな形で伝えます。

◎お問い合わせ：(有)ラム 03-5466-2788

3F

3階展示室

Exhibition Gallery

2月11日(土)・(祝) → 2月18日(土)

第6回上野彦馬賞 九州産業大学フォトコンテスト受賞作品展

○入場無料 ○主催：毎日新聞社、九州産業大学 ○後援：文化庁、日本写真芸術学会、東京都写真美術館

本コンテストは、21世紀に羽ばたく若い写真家の発掘と育成を目的とし、プロ・アマを問わず、39歳以下の一般部門と高校生・中学生部門を併設しているのが特徴です。第6回目を迎えた今回は、過去最多となる2,631点の中から選ばれた一般部門28点、高校生・中学生部門43点の入賞作を展示します。また、勝海舟、大久保利通ら幕末から明治にかけて活躍した人物や城郭のオリジナル古写真34点(下関市長府博物館所蔵)もあわせて展示します。

HP 詳細ホームページ:

http://www.ip.kyusan-u.ac.jp/hikoma/2005_sakuhin/index.htm

○お問い合わせ：毎日新聞福岡本部事業部

092-724-7203

B1F

地下1階映像展示室

Images & Technology Gallery

※5/1(月)は臨時閉館します

4月29日(土)・(祝) → 5月14日(日)

第34回社団法人日本広告写真家協会公募展

○入場無料

— 広告写真。そこには私たち人間の感情や気持ちを動かす何かがあります。一目見ればすぐに伝わる何か。その何かをみんなに見せられたとき、あらゆる写真が広告写真になり得るのです。しかし、現代は情報の洪水のなかで、いつしか刺激に鈍感になってしまい、ちょっとしたことで気持ちが動かない人がたくさんいます。そんな時代だからこそ、「人の気持ちを動かすパワー」を持った109点を選びました。新しい個性を持った次世代の広告写真を是非ご覧ください。

○お問い合わせ：社団法人日本広告写真家協会事務局 03-3543-3387

自然を見つめたフォトコンテスト2007(仮称)
作品募集のお知らせ

東京都写真美術館では、「日本の新進作家展Vol.5 新たなネイチャーフォトの挑戦」展(仮称)にあわせ、「自然」をテーマにした公募展を開催します。

私たちの環境に目をむけ、その現状に気づくこと、それが地球環境問題と向き合う出発点です。入賞作品は、展覧会会期中、当館2階ロビーに展示するほか、東京新聞紙上で発表します。多数のご応募をお待ちしております。

※応募要項、詳細については写真美術館のホームページおよび館内チラシをごらんください。

日本の新進作家Vol.5
新たなネイチャーフォトの挑戦(仮称)

主催：東京都写真美術館、東京新聞
会期：2007年1月2日(火)～2月18日(日) 会場：地下1階展示室

出品作家
菊池哲男(きくち・てつお 1961-)
前川貴行(まえかわ・たかゆき 1969-)
林明輝(りん・めいき 1969-)

○お問い合わせ：東京都写真美術館 03-3280-0099



【ハクトウワシ】©前川貴行

1F ミュージアムショップ「ナディッフ バイテン」

○お問い合わせ：「ナディッフ バイテン」 直通 03-3280-3279

NADIFF X IO

www.syabi.com/shop/shop.html

美術館の収蔵作品をあしらったオリジナルグッズが出来上がりました。
来館の記念にいかがでしょうか。

10TH ANNIVERSARY GOODS



作品を表紙にデザインしたシックなメモ帳です。
ハードカバーのタテ型タイプ。

メモ帳
6種 各¥945(税込)

マグカップは植田正治と中村立行の2種です。カップの底にもかわいいシルエートをプリントしました。

マグカップ
2種 各¥1,260(税込)

1・2F カフェ「シャンブル クレール〜明るい部屋〜」

○お問い合わせ：カフェ「シャンブル クレール」 直通 03-5798-2218

chambre claire

www.syabi.com/cafe/cafe_01.html

CHOCOLATE

ベルギーチョコレート各種
1個¥200(税込)

ご好評のベルギーチョコは古都ブリュージュよりお届け。芳しいカカオの香りとほどよい甘さ、深みとなめらかさは伝統的な製法で仕上げた本物の味わいです。

CAKE



オリジナルケーキ

※お値段は旬の素材によって変わりますのでお気軽におたずねください。

旬の素材にこだわったオリジナルケーキは甘さ控えめの大人の味。その時々季節の味覚をお楽しみいただけるのも手作りならではの贅沢。ぜひ、お召し上がりください!

全館休館のお知らせ

2月20日(月)～2月23日(木)および3月6日(月)～3月10日(金)

東京都写真美術館は設備点検のため上記の期間、全館休館いたします。
みなさまにはご迷惑をおかけ致しますが
どうぞよろしくご了承の程お願いいたします。

※なお1階カフェ「シャンブル クレール」は上記期間中も営業しております。
1階JR線路側入口をご利用ください。

○お問い合わせ：東京都写真美術館 03-3280-0099



1F

1階ホール

Hall Cinema information

- 友の会 割引
 - 三越カード 割引
 - アトレカード 割引
- 東京都写真美術館で観る映画シリーズ

HP 詳細ホームページ: <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

**中国第六世代の奇才「チャン・ユアン」監督(ベネチア国際映画祭銀獅賞受賞)
× 中国四大女優主演作品を連続上映**

写真美術館で観る映画シリーズ Vol.21

ウォー・アイ・ニー
我愛你 中国映画/98分
監督/チャン・ユアン
主演/シュー・ジンレイ トン・ダウェイ



■上映スケジュール: 3月11日(土)~4月14日(金)
■休館日: 月曜日(休日の場合は翌日)
■上映時間: 11:00/13:30/16:00/18:30
■料金: <当日券>一般 1,800円/学生 1,500円/中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

最愛の人を結婚前に事故で失ったシャオジュエは、彼の親友だったワン・イーと慰めあううちに愛し合うようになり、先を急ぐかのごとく結婚する。やっと居場所を見つけた彼女は、夫と愛のある結婚生活を送っていきたく願うが、夫はその思いを裏切るかのように冷めた態度。「愛してる」とささめ言われない日々、シャオジュエの愛情表現は徐々にエスカレートしていく・・・。
奇才チャン・ユアンが独自のアプローチで“男と女の愛し方の違い”を激しく、辛らつに描いた超リアルな作品。主人公シャオジュエを演じるのは中国四大女優のひとり、シュー・ジンレイ。夫、ワン・イー役は数々のTVドラマで活躍するトン・ダウェイが好演。理想と現実の狭間でふたりは「永遠の愛」を築くことができるのだろうか?

詳細ホームページ
<http://www.waaini.jp>
◎お問い合わせ: ムービーアイ
03-5537-0151

写真美術館で観る映画シリーズ Vol.22

緑茶 中国映画/90分
監督/チャン・ユアン 撮影/クリストファー・ドイル
主演/ヴィッキー・チャオ ジャン・ウエン 出演/ファン・リジュン



■上映スケジュール: 4月15日(土)~
■休館日: 月曜日(休日の場合は翌日)、但し5/1(月)は上映
■上映時間: 11:00/13:00/15:00/17:00/19:00
■料金: <当日券>一般 1,800円/学生 1,500円/中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

都会の忙しい夏、ウー・ファンは自分にふさわしい男性を求めてお見合いを重ねていた。ウー・ファンは大学院に通う地味なインテリ女性。彼女はお見合いをするとき、必ず緑茶を注文する。なぜなら女友達の「一杯の緑茶で人の愛の行方を占うことができる」という言葉を信じていたから・・・。
そんな彼女とたまたまお見合いで知り合った遊び人のチン・ミンリャンは次第にウー・ファンに興味を抱くようになっていく・・・。
撮影を「HERO」「2046」など独自の映像美で知られるクリストファー・ドイルが担当し、主演ウー・ファンを中国四大女優のひとりヴィッキー・チャオ、チン・ミンリャンを中国NO.1俳優ジャン・ウエンを配して、現代中国の男女をスリリングに描きます。中国現代アートのカリスマ、ファン・リジュンの出演も話題です。

◎お問い合わせ: キネティック
03-5548-5681

維 持 会 員

Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。

※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.syabi.com/membership/membership.html>

- 特別維持会員
キヤノン株式会社
株式会社資生堂
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社リコー
- 維持会員
株式会社アサツーディ・ケイ
旭化成株式会社
朝日新聞社
朝日生命保険相互会社
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
アップルコンピュータ株式会社
アデコ株式会社
エスエス製薬株式会社
株式会社NHKエデュケーショナル
株式会社NHKエンタープライズ
NTTコミュニケーションズ株式会社
株式会社NTTデータ
株式会社NTTコム
NTT都市開発株式会社
エルメスジャパン株式会社
株式会社大塚商会
株式会社大林組
奥村印刷株式会社
オムロン株式会社
オリックス株式会社
オリバス株式会社
株式会社オンワード樫山
科研製薬株式会社
カンオ計算機株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社角川書店
カトレック株式会社
カルピス株式会社
キャッコーマン株式会社
株式会社紀伊國屋書店
キヤノン販売株式会社
共同印刷株式会社
社団法人共同通信社
協和醸造工業株式会社
- キリンビール株式会社
株式会社講談社
株式会社光文社
株式会社コーセー
コダック株式会社
コニミノルタホールディングス株式会社
株式会社コングレ
株式会社ザ・アール
サッポロホールディングス株式会社
佐藤製菓株式会社
三共株式会社
産経新聞社
サンリー株式会社
株式会社ジェイアール東日本企画
ジェイティービー印刷株式会社
株式会社実業之日本社
清水建設株式会社
株式会社写真弘社
シャネル株式会社
株式会社集英社
株式会社主婦と生活社
扇報社写真印刷株式会社
株式会社小学館
松竹株式会社
信越化学工業株式会社
株式会社新潮社
株式会社スタッフサービス・ホールディングス
住友化学株式会社
株式会社生活の友社
セイコー株式会社
株式会社絶対空間
セントラル警備保障株式会社
全日本空輸株式会社
ソニー株式会社
第一建築サービス株式会社
大成建設株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社竹中工務店
株式会社タムロン
株式会社丹青社
中外製薬株式会社
株式会社ディー・エイチ・シー
- 株式会社テー・オー・ダブリュー
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
電源開発株式会社
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東京ガス株式会社
東京急行電鉄株式会社
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
株式会社東京スタジオ
東京総合写真専門学校
東京テアトル株式会社
株式会社東京ドーム
株式会社東京放送
株式会社東芝
東宝株式会社
株式会社東北新社
株式会社徳間書店
図書印刷株式会社
戸田建設株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社ニコン
日外アソシエーツ株式会社
日産自動車株式会社
株式会社NIPPOコーポレーション
日本オラル株式会社
株式会社日本カメラ社
日本経済新聞社
日本興亜損害保険株式会社
社団法人日本広告写真家協会
日本写真印刷株式会社
ソニー株式会社
日本写真芸術専門学校
日本写真作家協会
社団法人日本写真文化協会
日本大学芸術学部
日本たばこ産業株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本ハム株式会社
日本ヒューレット・パカード株式会社 (平成17年12月現在・五十音順)
- 日本ビルサービス株式会社
株式会社ニッポン放送
日本油脂株式会社
株式会社博報堂
株式会社バンダイ
びあ株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社ファンケル
株式会社ファンケル
富国生命保険相互会社
富士写真フイルム株式会社
富士重工株式会社(スバル)
富士ゼロックス株式会社
株式会社フジテレビジョン
株式会社扶桑社
株式会社ブリヂストン
株式会社プリンスホテル
株式会社フレームマン
株式会社文藝春秋
株式会社ベネッセコーポレーション
ベントックス株式会社
株式会社ホテルオークラ
株式会社堀内カラー
本田技研工業株式会社
毎日新聞社
株式会社マガジハウス
松下電器産業株式会社
丸善株式会社
三井倉庫株式会社
武蔵大学
森ビル株式会社
モルガン・スタンレー証券会社
モンブラン ジャパン株式会社
ヤマトロジスティクス株式会社
UFJニコス株式会社
ユニバー・ジャパン株式会社
横河電機株式会社
読売新聞社
ライオン株式会社
株式会社ワコール

友の会
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY
Supporter

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。開館時間中(10:00~18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。
TEL:03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中はいつでもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き ※詳細はお尋ねください
その他	○写美NEWS「eyes」送付 ○1階ホール(宝飾劇場)の割引 ○オデッセイ本店(表参道)で輸入商品1,000円以上のお買上につき5%割引(除外品あり) ○ロコス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など